

3

アレルギー疾患の対応推進体制

3-1 教育委員会の役割

教育委員会は、学校に対して、管理指導表（アレルギー疾患用）に基づく取組を徹底し、アレルギー疾患の児童生徒の把握と緊急時の対応のための環境整備を行うことが必要です。

教育委員会の具体的な役割（例）

◆ 学校の対応状況の把握と指導

- ・学校及び保護者と協議し、環境整備に努めるとともに、学校での対応が適切であるかの確認と対応に関する指導を行うようにしましょう。

◆ 消防機関等との広域的な対応に関する連携

- ・食物アレルギー・アナフィラキシー・気管支ぜん息が「あり」の場合、緊急の対応が必要となることもあるため、日頃から関係機関等と「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン《令和元年度改訂》（公益財団法人日本学校保健会令和2年3月発行）」や本指針、管理指導表の運用について共通理解を図り、円滑な連携を行えるようにしましょう。
- ・特に、エピペンを所持している児童生徒やアナフィラキシーの可能性のある児童生徒がいる場合、必ず管轄の消防機関に対して情報提供し、緊急時の対応を適切に行えるようにしましょう。

◆ 学校での取組実践に対する指導と支援

- ・学校での取組実践が適切であるかを確認するとともに、取組に対する指導を行います。
- ・原因食物の混入防止対策の一環として、調理場や調理機器・器具の整備、必要な人材の配置などがあげられます。

◆ アレルギーヒヤリハット・アレルギー事故への指導の徹底

- ・学校でアレルギーヒヤリハットやアレルギー事故が生じた場合、学校からの報告を確認してください。報告の際に不明な点があれば学校に連絡し、取組が不十分であると判断した場合、2度と起こらないように具体的な対応策を学校と検討するとともに、指導の徹底を行いましょう。
- ・指導の徹底後、県教育委員会に報告し、情報共有を図るようにしてください。

◆ 教職員のアレルギー対応研修会の実施

- 教育委員会の職員や学校の全教職員に対して、継続的に研修会を実施し、アレルギー対応が円滑に行えるように支援しましょう。その際、エピペンの取り扱いや実技演習を取り入れた研修であることが望ましいです。
- 学校での取組は、支援員等の非常勤職員も含まれます。非常勤職員も含めた全教職員に対して研修会の機会を確保するようにしましょう。